

後期研修の概要

概要

麻酔科主任部長：西村 信哉

集中治療部部長：平尾 収

スタッフ：11名

(日本麻酔科学会麻酔科指導医3名 専門医3名、認定医3名、
日本集中治療医学会集中治療専門医2名、JB-POT 取得者3名)

レジデント：5名

麻酔科管理件数：5,018件（平成26年度）

ICU収容患者件数：791件（平成26年度）

当センターは日本麻酔科学会専門医認定施設、日本集中治療医学会専門医認定施設、日本呼吸療法医学会専門医認定施設です。

特徴

1. 歴史

当センター麻酔科は、昭和44年4月に大阪府立病院麻酔科として開設されました。同年6月より手術・検査の全身麻酔のすべてを担当し、昭和44年中に1,100件、昭和45年には1,368件の麻酔を実施しました。昭和50年5月、独立した当直制度により麻酔およびICUにおける集中治療を24時間体制とし、昭和54年には院内の急変患者に対する二次救命処置を行う心肺蘇生システムを整備しました。これらの診療業務は、急性期医療の重要な柱としての麻酔科医の存在を確立し、平成15年の病院名称変更や平成19年4月の府立身体障害者福祉センター附属病院との統合以後も、病者を癒す医者として現場で診療する伝統を重んじつつ、全国から熱意ある人材を集めて、急性期からリハビリテーションまで一貫した高度な医療を提供する施設の麻酔・集中治療部門として積極的に活動しています。平成25年にはロボット手術専用の手術室が完成し、平成26年11月からは大動脈弁狭窄症に対して TAVI 手術が始まりました。平成27年3月には麻酔科開設以来麻酔科管理症例数が11万3000件を超えました。最近4年間の麻酔科管理手術件数の増加はめざましく、平均4,500件を超えています。麻酔と集中治療の良好な連携とバランスをとりながら、日本麻酔科

学会および日本集中治療医学会の認定指導施設として、麻酔科医・集中治療医の育成にも努めています。

2. 麻酔科スタッフと麻酔・集中治療の症例

平成27年4月1日現在の麻酔科常勤医師は11名で、日本麻酔科学会麻酔科専門医は6名（うち日本麻酔科学会麻酔科指導医3名）、日本集中治療医学会集中治療専門医は2名です。同日現在の後期研修医（レジデント）は5名で、初期研修医（スーパーローテイト）は3～5名が麻酔科で研修しています。障がい者歯科から週1日歯科麻酔の応援・指導にあたってくれる歯科麻酔専門医1名が加わり、皆の力をあわせて、手術室（13室）やICU（特定集中治療室8床）で日々の診療にあたりながら、研鑽に努めています。

3. 麻酔科後期研修とその後

麻酔科専門医をめざして後期研修医を目指される場合、麻酔科学会に入会して麻酔科専攻医として登録する必要があります。

・新しい麻酔科専門医制度

初期研修終了後、専門医を目指す医師は日本専門医機構が認定する基本領域専門医（19領域、麻酔科専門医はここに属する）の専門医を目指すことになります。その制度は平成29年度から始まりますが、日本麻酔科学会は2年間前倒しとし、平成27年4月から新しく麻酔科専門医を目指す医師（専攻医）を対象に新麻酔科専門医研修プログラムが始まりました。基本領域専門医取得後にサブスペシャリティー領域（29領域、集中治療専門医はここに属する）を取得していくことになります。当センターは日本麻酔科学会および日本集中治療医学会の両者の認定研修施設でいずれの専門医取得に際しても有利です。

麻酔科専攻医は一般の全身麻酔や区域麻酔に加え、心臓血管・脳神経・呼吸器などの専門領域の麻酔や集中治療・疼痛治療をスタッフの指導のもとで主体的に経験しながら幅広く症例を重ね、厚生労働大臣による麻酔科標榜許可を得るとともに、日本麻酔科学会の麻酔科認定医を申請します。麻酔科標榜医を取得すれば、専攻医として研修中でも当センターの常勤医になることも可能です。

専門医取得後は、責任基幹施設である大阪大学医学部附属病院の関連病因において常勤医として勤め、さらなるサブスペシャリティーの専門医をめざすことや大学院で研究し学位を取得することも可能です。

麻酔科医の需要が供給を大きく上回る現状は、当分の間は全国的に続く見込みで、麻酔科専門医や集中治療専門医となった後は、当センターはもとより全国各地の施設で、自分に適した条件で思う存分に活躍することができます。女性医師の増加に対応して、育児と医療への貢献の両立を支援する体制をとる施設も増えています。

4. 麻酔科専門医研修の方法

麻酔科専門医とは、専攻医として定められた水準の研鑽を積み、麻酔科関連の臨床、研究に関する十分な知識と技量を有することを認定された麻酔科関連業務に専従する医師のことです。専攻医として、卒後臨床研修終了後4年以上、日本麻酔科学会承認の研修プログラム(体制)により提供される研修カリキュラム(研修課程)のもとで研修を行う必要があります。研修プログラム実施施設について 研修プログラムは、単独の施設あるいは複数の施設群によって構成されます。実施施設は、責任基幹施設、基幹研修施設、関連研修施設の3つに分類されます。当センターは、大阪大学医学部附属病院を責任基幹施設とする施設群の中で基幹研修施設となっています。

【専門医の申請】

初期研修終了後4年以上プログラム研修制度で指定の研修が必要です。また、以下の経験必要症例数が申請要件に追加されました。2015年以降、後期臨床研修を始める専攻医は新制度に則り研修を受け、4年間の修練後、新たな制度の新規認定審査を受けることとなります。

経験必要症例数について

小児（6歳未満）の麻酔	25症例
帝王切開術の麻酔	10症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）	25症例
胸部外科手術の麻酔	25症例
脳神経外科手術の麻酔	25症例

- 小児と心臓については1症例の担当医を2名までとしますが、その他の麻酔症例では1症例の担当は主たる担当医1名とします。また、1症例を重複して申請することは認めません。

当センターは症例が豊富で、小児の麻酔を除けば1年間で経験必要症例数を達成することが可能です。2年間の研修で経験必要症例数をカバーすることが可能で、その後集中治療研修にも参加できます。

麻酔科専門医をめざすにあたっては麻酔科学会のホームページ(<http://www.anesth.or.jp/>)を参照してください。

業績・実績

全身麻酔(平成26年度4,235件)のみならず、脊髄も膜下麻酔や硬膜外麻酔などの区域麻酔(平成26年度765件、全身麻酔への併用をあわせると1,708件)も担当しており、平成26年度の麻酔管理症例は合計5,018件でした。平成26年度の心臓血管外科手術は312件、脳神経外科手術は223件、脊椎手術は188件など、症例はバラエティに富んでいます。救命救急センターが施設内にあるため、緊急手術が多い(平成26年度666件)のも特徴です。また、糖尿病、高血圧症、腎疾患、心疾患、中枢神経系疾患をはじめ、各種の合併症をもつ症例が豊富です。ASA3以上の重症症例は1753件でした。

麻酔科医師が中心となってICU管理を行うICUがあり、診療各科の協力のもとICUを民主的に運営しています。平成26年度のICU収容件数は791件で、心臓血管外科、外科、脳神経外科、整形外科などの外科系患者が91%を占め、surgical ICUの特徴を示しましたが、内科系の重症疾患71件にも対応しました。平均滞在日数は3.5日(外科系3.4日、内科系4.1日)でした。同年のICUでの死亡は12例で、死亡率1.5%と低値でした。ICU収容者の重症度はSAPS II(New Simplified Acute Physiology Score)を用いて評価しています。また、同年のICU収容者の平均SAPS IIスコアは30.7点でした。

麻酔科専門医取得に必要な特殊麻酔件数と当センター平成25、26年度の特殊麻酔件数

	必要な件数	平成25年度	平成26年度
小児(6歳未満)の麻酔	25	80	88
帝王切開術の麻酔	10	90	117
心臓血管手術の麻酔*	25	161	162
胸部外科手術の麻酔	25	141	127
脳神経外科手術の麻酔**	25	192	188

*人工心肺を使用した心臓大血管手術とオフポンプCABG手術

**脊髄手術は含まない

|| 見学等問合せ先 ||

西村 信哉 : nishimuras@opho.jp